

子どもや若者に対する 甲状腺超音波検査のメリット・デメリット

無症状の段階で甲状腺超音波検査で小さな甲状腺がんを見つけることは有害無益です。
国際的には福島で実施されているような検査は害が大きいのですべきでないとされています。

甲状腺超音波検査のメリット

無症状の段階で甲状腺超音波検査を受けてもなんらメリットはありません

Q 甲状腺がんを早くみつけることで甲状腺がんで死ぬ確率が減るの？

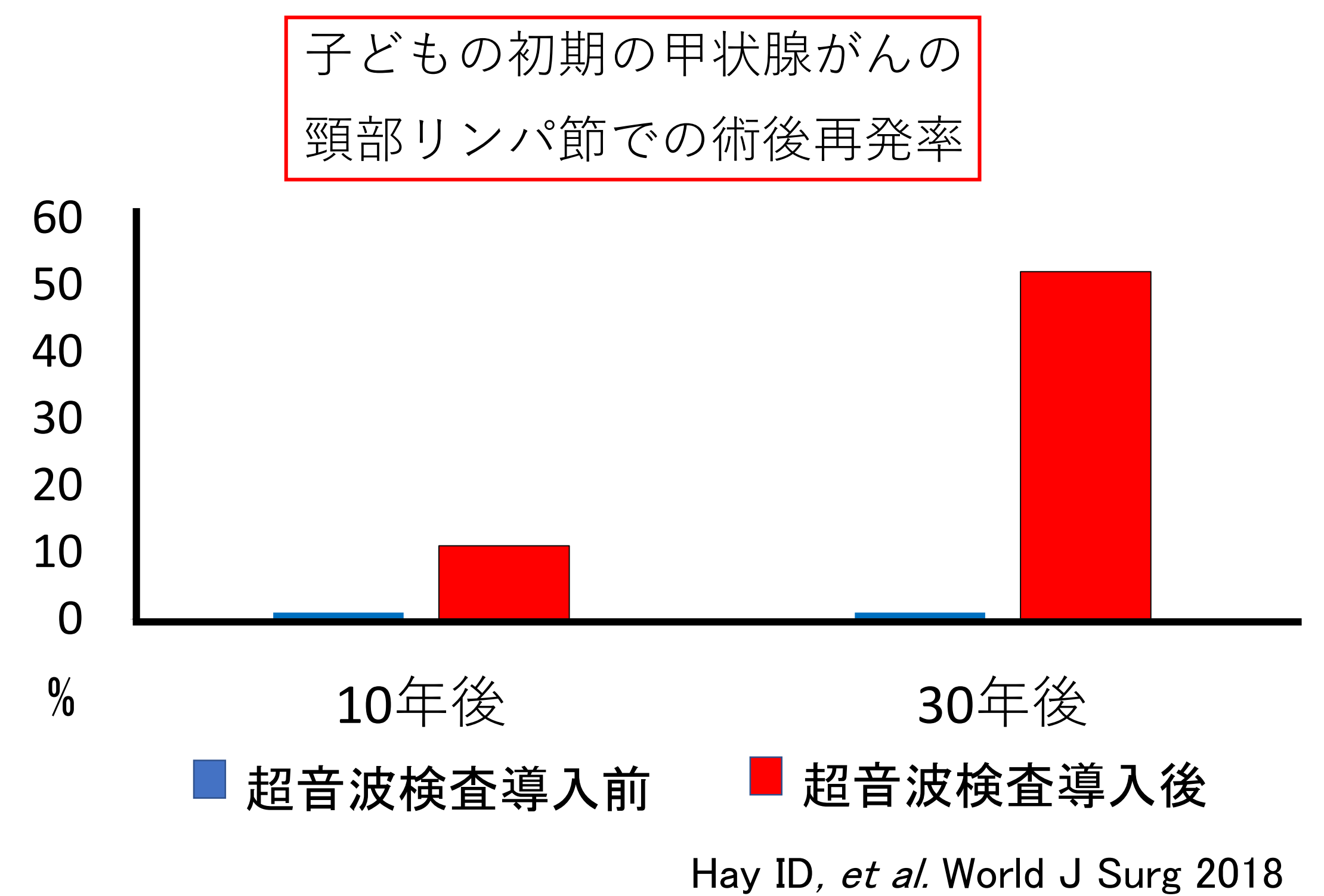
A 減りません。

小児甲状腺がんの30年生存率は99%、早期診断してもこれ以上改善することは困難です。

Q 甲状腺がんを早くみつけて早く治療することで術後の再発が減るの？

A 減りません。かえって増える可能性があります。

甲状腺がんは超音波でしか見つからない小さなうちから周囲に転移しています。すなわち、超音波で診断されても早期診断にはなりません。縮小手術等の影響でかえって**再発率は増えてしまう可能性があります**。アメリカのデータ(右)では、超音波検査を導入する前は小さな甲状腺がんの術後の再発はほとんどなかったのに超音波検査で小さながんが診断されるようになった以後再発率が激増しています。福島甲状腺検査で見つかった症例でも超早期に診断・治療されたはずなのに既に多数の再発例が報告されています。



甲状腺超音波検査のデメリット

過剰診断という重大な健康被害が起こり得ます

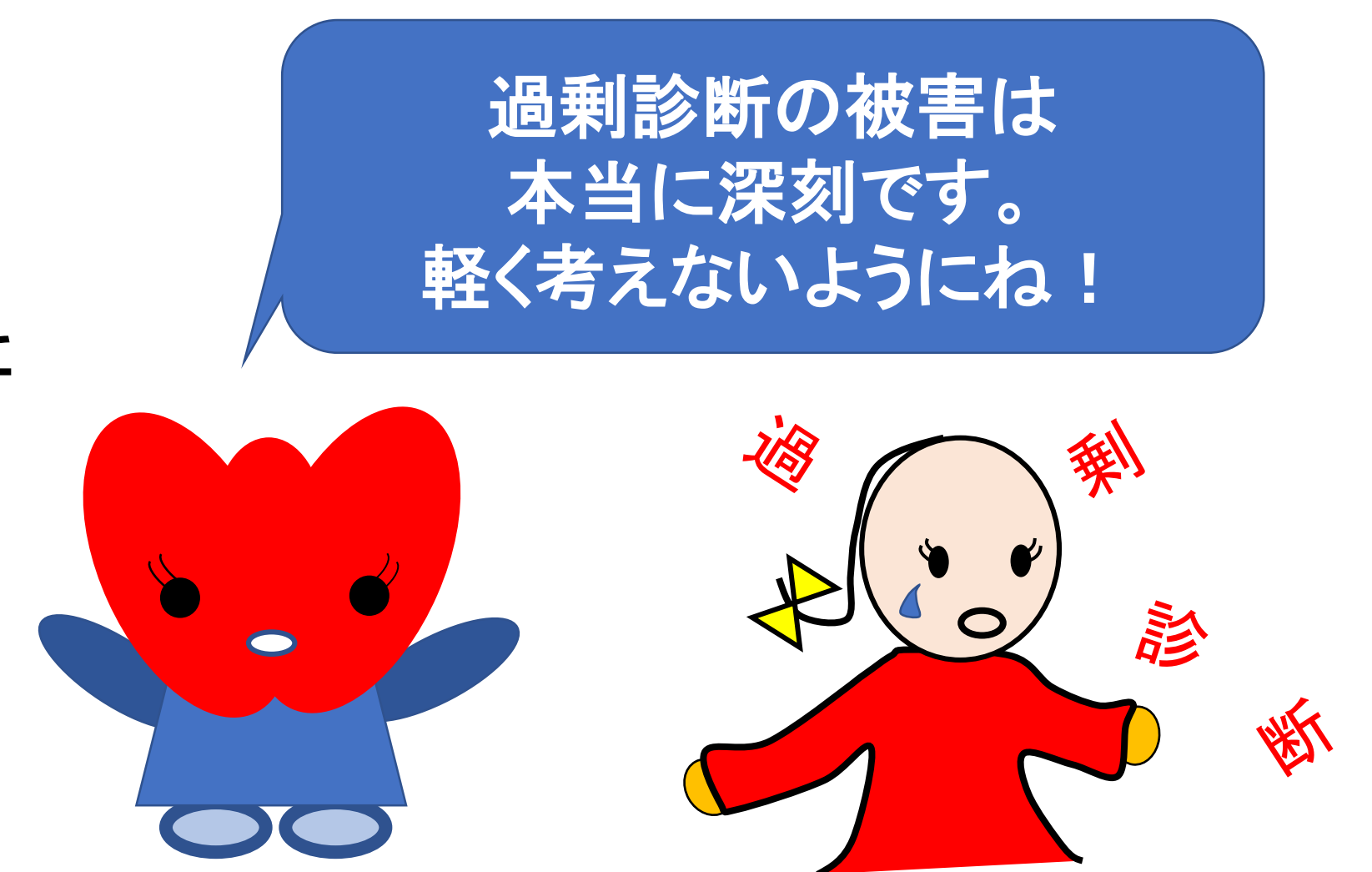
子どもや若者で見つかる小さな甲状腺がんの大部分は検査しなかったら一生気づかなかったものです。そのようながんを超音波検査で見つけて子どもや若者に「がん患者」のレッテルを貼ること(過剰診断)は彼らの一生に重大な悪影響をもたらします。福島県の計画通りに全員が検査を受けたとすると**2000人**程度が過剰診断の被害を受けるものと推定されています。

過剰診断の被害① 無駄な手術・通院の負担

「甲状腺がん」と診断された子どもや若者の大半が手術を選択しますが、その手術は高い確率で不要であったはずのものです。また、甲状腺がんは術後数十年たっても再発することがあるため、手術をするにしても手術をせずに経過をみるにしても、がん患者として**一生涯の通院が必要**となります。これらの負担は、検査を受けなければ本来不要であったはずのものです。

過剰診断の被害② 生活の質(QOL)の低下

「がん患者」とされてしまった子どもや若者は、進学・就職・結婚・出産などのライフイベントで様々な困難を抱えることになります。小児甲状腺がんは命に関わることはまれですが、いったん「がん」と診断されると命に関わるような他の小児がんの患者と同じレベルまでQOLが低下するとの報告が出されています。特に**学業に与える影響は深刻です**。



日本だけ異なる甲状腺がんスクリーニングに対する医療者の認識

海外では、アメリカ予防医学専門委員会(USPSTF)等の勧告でみられるように、若年者に限らず、無症状の人に対して超音波検査等で小さな甲状腺がんを見つけに行く医療行為(**甲状腺がんスクリーニング**)は**害が利益を上回るため「やってはいけない」**、という評価になっています。ところが、国内では超音波検査は病院のドル箱でもあり、学会が健康被害に対する警鐘を積極的に鳴らしていないことも影響して、医療者の間にそのような認識が広まっておらず、いまだに多くの病院で「甲状腺がん検診」として甲状腺超音波検査が実施されています。

福島県の住民への説明の問題点

福島県の県民への説明では検査の受診を勧奨するような科学的根拠に基づかない記載がみられます。県の情報をうのみにせず、ご自分で正しい情報を確認することも大事です。若年型甲状腺癌研究会のホームページも活用ください。

**甲状腺検査の
メリット**

科学的に証明されたメリットは一つもありません。

- ・検査で異常のないことが分かれば、放射線による健康への影響を心配している人にとっては**安心**できる可能性があります。
- ・**早めの診断・治療により、合併症や副作用、再発の可能性などを低くすることができます。**

これを証明するデータは存在しません。

福島県作成アニメ動画より

甲状腺がんの多くは治療で治ります

がんであっても自覚症状がなく、小さくておとなしいがんは手術をせず、様子を見る場合もあります。

甲状腺がんの治療は手術が中心です。**治療した後も治療前と同じような生活を送ることができます。**

甲状腺がん、と診断されると生活は悪い方に一変します。元の生活に戻ることは困難な場合もあります。